2nd class review

レヴィットの中絶と犯罪減少の因果関係は画期的であり、同時にレヴィットが仮定として提示しているものの深くは取り上げていない、望まれなかった子供がより犯罪を起こしやすい現象の裏の因果メカニズムが気になりました。私は今まで犯罪率は主に経済的地位により決定され、合理的行為者たる犯罪者が経済的動機により犯罪に手を染めると思っていました（レヴィットのWhy do drug dealers live with their parents?でも同様な議論、正確にはwinner takes all の経済での期待値計算により犯罪を選択するというメカニズムを説明しています）。しかし、レヴィットの提示したDagg (1991)を参照すると、社会経済的地位でコントロールしてもなお望まれなかった子供の方が犯罪により公式記録に残る傾向が高いことがわかりました。これを考えると、犯罪率の主要な決定要因となるのは親子の絆の強さであり、経済的地位の低さと親が中絶を希望していたかどうかという要因はそれぞれ親子の絆の強さに作用する要因であったのかなと考えました。経済的余裕がないと、親は長時間労働で子供と過ごす時間、気力がなくなるでしょうし、子を望んでいなかった場合は同様に子供と心理的距離をとると考えられるからです。因果関係って難しくて面白いですね。